

2020年の木材輸入実績

令和3年4月
林野庁 木材貿易対策室

1. 2020年における世界の木材需給動向

- 2020年は、年初からのコロナ禍の混乱により、世界的に海上輸送用コンテナが不足、海上運賃が値上がり。
- 中国では早期に経済活動が再開する一方、東南アジア等で生産が停滞。
- 米国における住宅需要の急増により、北米の木材価格が高騰、世界の木材需要を牽引。

【コンテナ不足による貿易への影響】

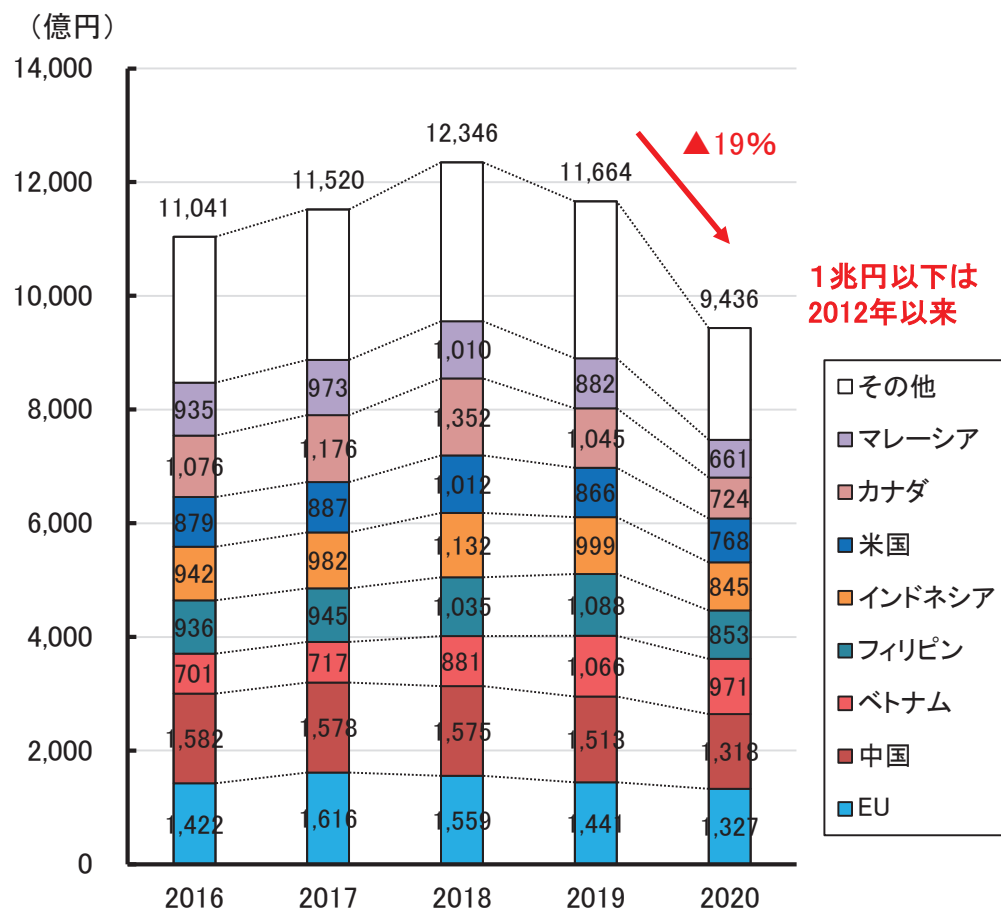
- 中国で始まったコロナ禍は、春以降、世界中に拡大。各国政府の外出禁止措置等により、各国での生産活動が停滞。
- その後、中国の経済活動がいち早く再開。夏以降、欧米での「巣ごもり需要」拡大により、中国から欧米向けの貨物が急増。欧米でコンテナが滞留し、アジア圏でコンテナ不足が発生。
- このため、海上運賃が値上がりして、各国からの輸出に影響⁽¹⁾。

【地域別の主な動向】

- **米国**： 自宅待機要請に伴って自宅の改築・改修が増加。住宅需要の増加と記録的な低金利の住宅ローンにより、住宅着工数も増加。これにより、第Ⅱ四半期以降、木材需要が回復。7月以降は、木材価格が急激に上昇して、年末には歴史的な水準まで高騰⁽²⁾。
- **欧州**： 経済活動の再開後、堅調な建築市場とDIY需要の増加により、域内の需要が回復⁽³⁾。米国での木材需要の高まりに伴い、米国への輸出も増加⁽⁴⁾。キクイムシ被害木の処理により、原木供給は豊富⁽⁴⁾。
- **東南アジア**： マレーシアやインドネシアで合板等の生産が停滞。マレーシアでは、インドネシアとの国境間移動制限により、合板工場等における労働力が不足。悪天候により、原木供給も不足⁽⁵⁾。
- **ニュージーランド**： 木材の伐採・輸出を一時的に停止。再開後は、中国への輸出が大幅に回復⁽⁶⁾。
- **中国**： コロナ禍においても、丸太輸入量は横ばい。特に、ドイツ・チェコなどの安価な被害木の輸入量が増加⁽⁷⁾。一方、中国の税関は、豪州産の輸入木材から害虫が発見されたことを理由として、12月から豪州産の全ての丸太輸入を禁止⁽⁸⁾。

2. 木材輸入額

- 2020年の木材輸入額(HS44類)は、前年比▲19%減の9,436億円。輸入額が1兆円を下回るのは、2012年以来。
- EUは、中国に代わって、木材輸入額第一位。
- EU: 前年比▲8%減、中国: 同▲13%減、ベトナム: 同▲9%減、フィリピン: 同▲22%減、インドネシア: 同▲15%減など、主要国は軒並み減。



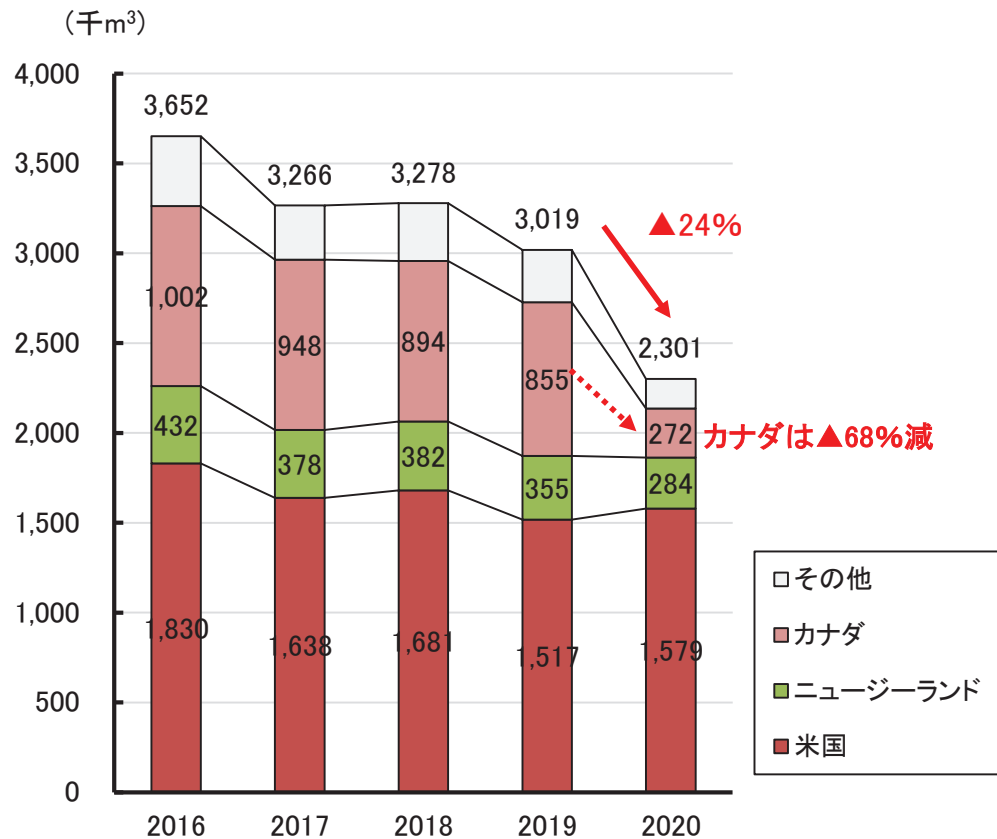
資料:「貿易統計」

注:2020年木材輸入額は速報値

木材輸入額の推移

3. 品目別輸入動向－(1)丸太

- 2020年の丸太輸入量は、前年比▲24%減の230万m³。
- 米国(シェア:69%)は、同▲4%増の158万m³。カナダ産丸太輸入量の大幅減により、米国産丸太に代替需要が発生⁽⁹⁾。
- NZ(同12%)は、同▲20%減の28万m³。第Ⅱ四半期の経済活動の再開後、中国向け輸出にシフト⁽⁶⁾。5月と10月は輸入量ゼロ。
- カナダ(同12%)は、同▲68%減の27万m³。カナダの最大手丸太輸出業者が、経営戦略の観点から、一時的に自社有林の伐採を停止したため激減⁽¹⁰⁾。5月と9月は輸入量ゼロ。

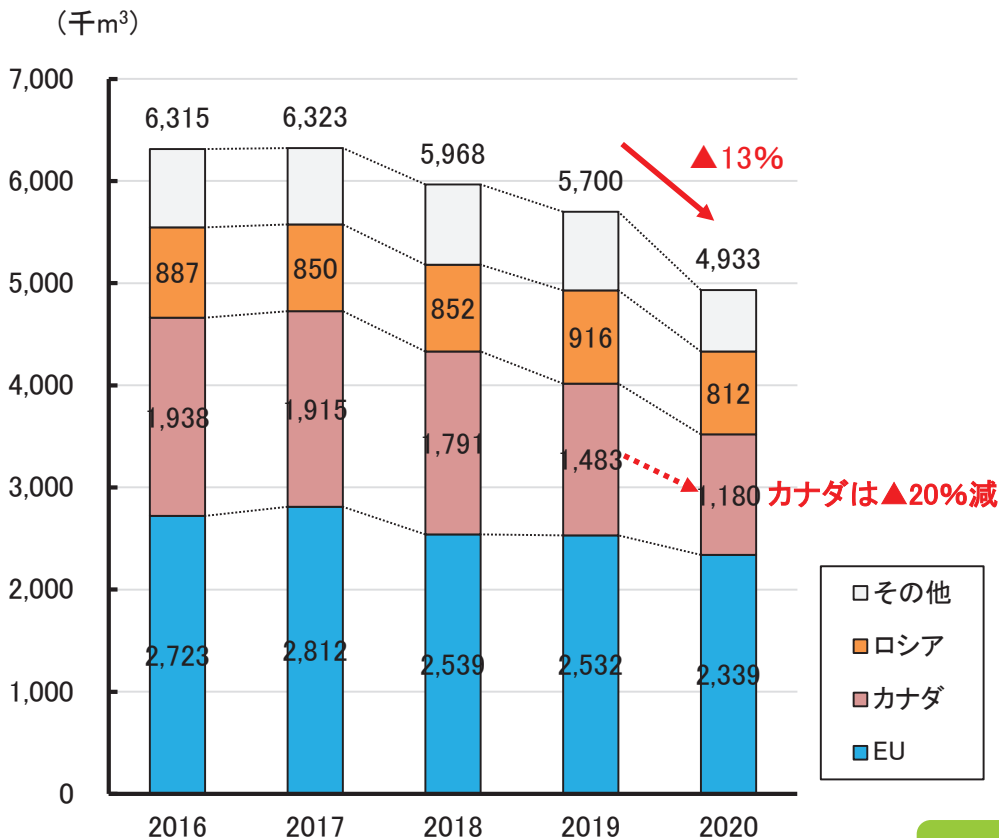


資料:「貿易統計」

丸太輸入量の推移

(2) 製材

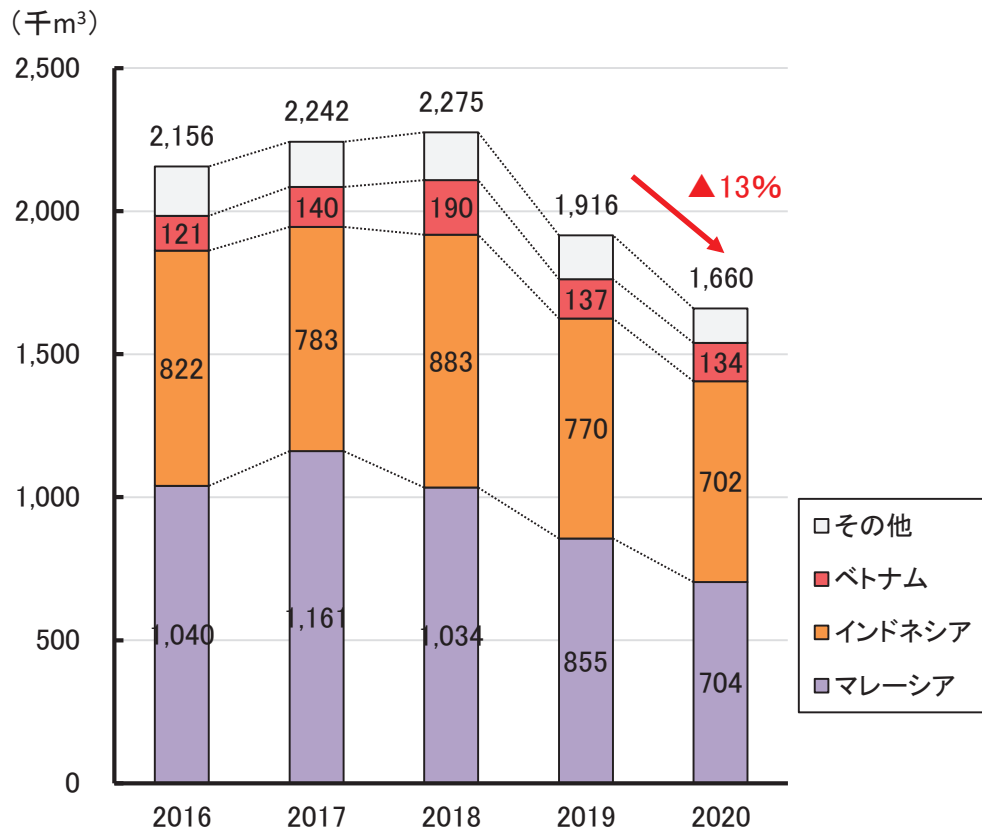
- 2020年の製材輸入量は、前年比▲13%減の493万m³。
- EU(シェア:47%)は、同▲8%減の234万m³。フィンランドにおける製材工場のストライキにより、第Ⅰ四半期に供給の遅れが発生。経済活動の再開後、堅調な建築市場とDIY需要の増加により、欧州域内の需要は回復⁽³⁾。北米への輸出も増加⁽⁴⁾。
- カナダ(同24%)は、同▲20%減の118万m³。北米域内での需要増加と製材価格の高騰が影響⁽²⁾。2×4住宅の着工戸数も、同▲15%減(新設住宅着工戸数計は同▲10%減)⁽¹¹⁾。
- ロシア(同16%)は、同▲11%減の81万m³。



製材輸入量の推移

(3) 合板

- 2020年の合板輸入量は、前年比▲13%減の16.6万m³。
- マレーシア(シェア:42%)は、前年比▲18%減の70.4万m³。コロナ禍による入国制限で、インドネシアからの労働者確保が困難となり、工場での生産が停滞。悪天候による原木の出材不足、コンテナ不足による運賃上昇も影響^(5,12)。
- インドネシア(同42%)は、前年比▲9%減の70.2万m³。マレーシアと同様に、労働力と原木の不足、運賃の上昇が影響^(5,12)。
- ベトナム(同8%)は、前年比▲2%減少の13.4万m³。

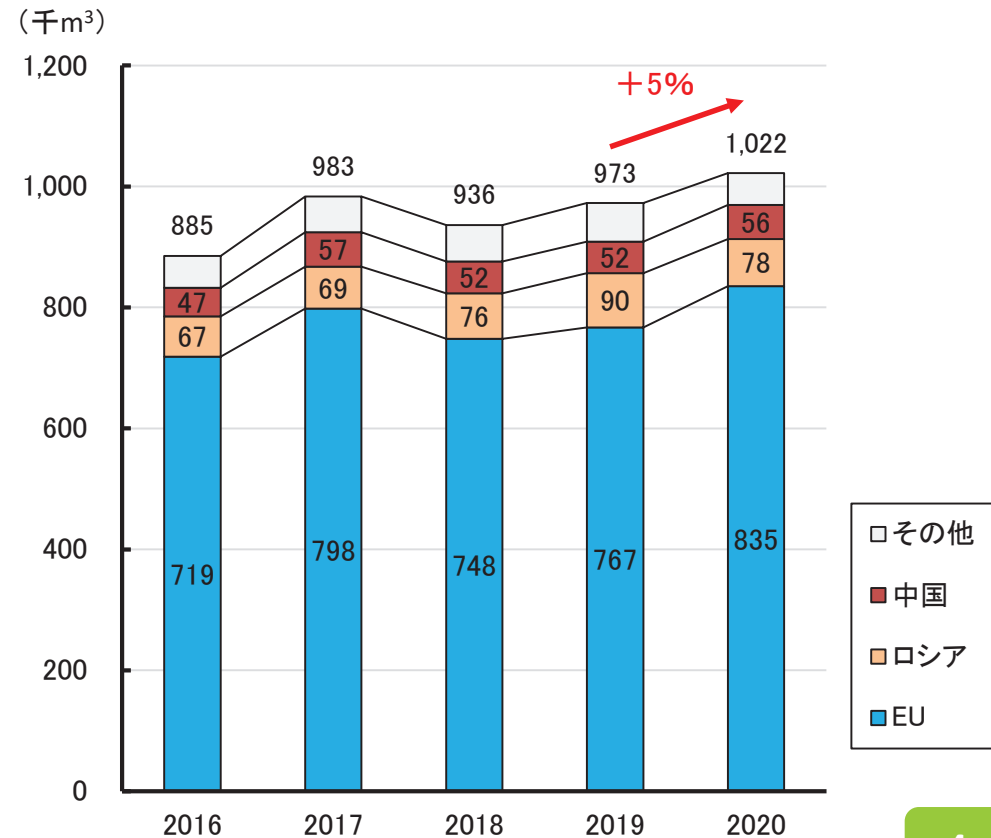


合板輸入量の推移

資料:「貿易統計」

(4) 集成材

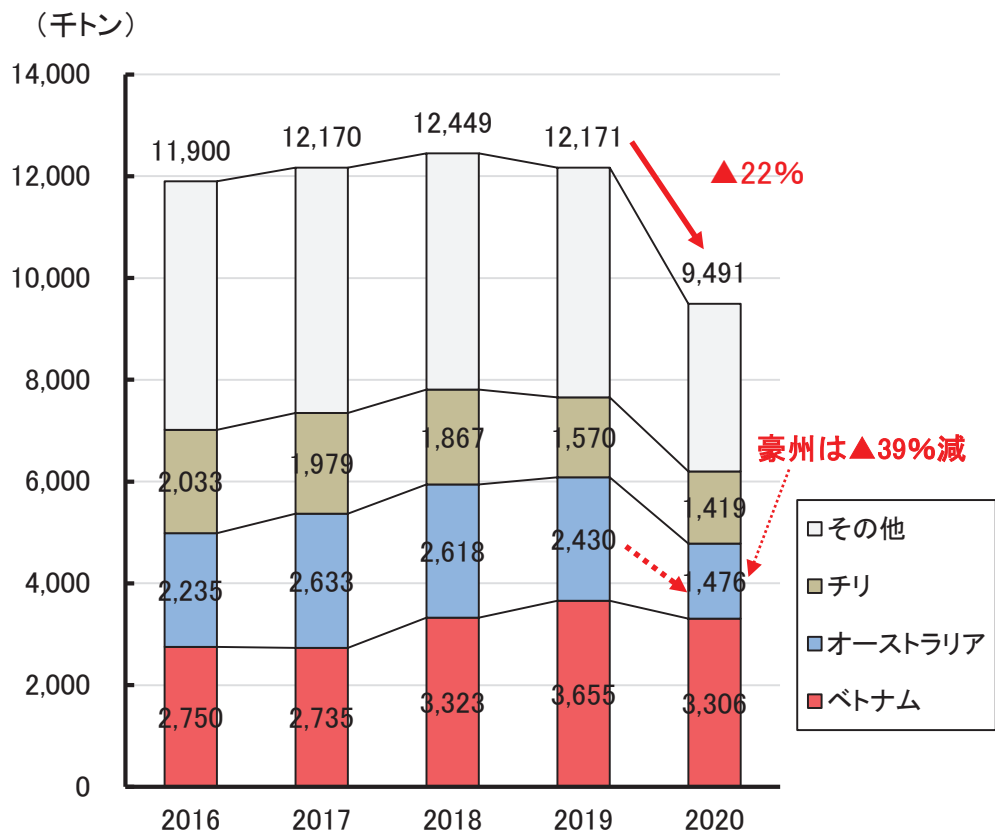
- 2020年の集成材輸入量は、コロナ禍においても、前年比+5%増の102万m³(うち、構造用集成材:91万m³)。
- 東京オリンピックに伴う物流の停滞・混乱を見越して、夏頃まで輸入が増加。第IV四半期以降は、欧米市場の回復により減少⁽¹³⁾。
- EU(シェア:82%)は、前年比+9%増の83.5万m³。木造住宅の横架材で競合する米マツ製材との代替が進展。
- EU加盟国別では、フィンランド:前年比+12%増、ルーマニア:同+17%増、オーストリア:同▲1%減など。
- ロシア(同8%)は、前年比▲13%減の7.8万m³。中国(同8%)は、同+7%増の5.6万m³。



集成材輸入量の推移

(5) 木材チップ

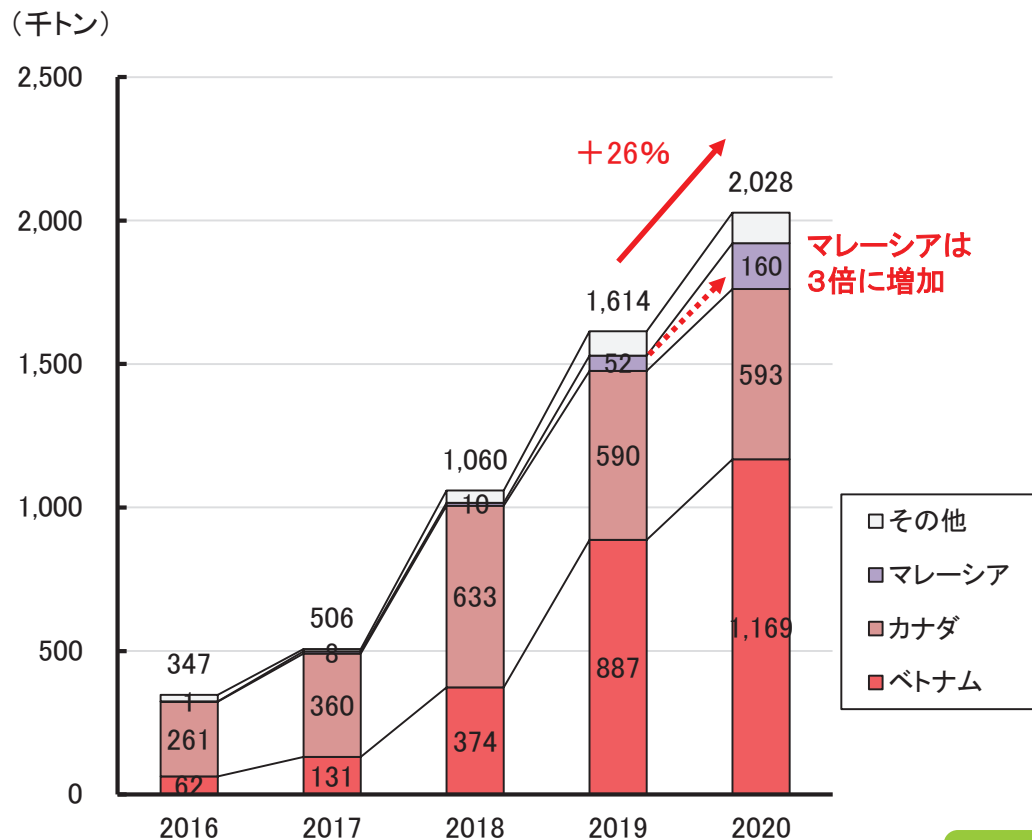
- 2020年の木材チップ輸入量は、前年比▲22%減の949万トン。
- コロナ禍により、ペーパーレス化が加速し、紙の需要が減少したことが影響。2020年の紙・板紙の国内出荷量は、前年比▲10%減⁽¹⁴⁾。
- ベトナム(シェア:35%)は、同▲10%減の331万千トン。
- オーストラリア(同16%)は同▲39%減、チリ(同15%)は同▲10%減など、軒並み減少。オーストラリアは、安価なベトナム産チップとの競合により、輸出量が大幅に減^(15,16)。



資料:「貿易統計」 木材チップ輸入量の推移

(6) 木質ペレット

- 2020年の木質ペレット輸入量は、前年比+26%増の203万トン。
- ベトナム(シェア:58%)は、同+32%増の117万トン。ベトナムは発電事業者の求める森林認証製品を供給可能であることから、火力発電所における石炭混焼用の需要が増加⁽¹⁷⁾。
- カナダ(同29%)は同+1%増、マレーシア(同8%)は同+206%増など、軒並み増加。マレーシア政府は、アジアを対象に、木質ペレットの輸出拡大に注力⁽¹⁸⁾。



木質ペレット輸入量の推移

出典

- (1) 日経新聞 電子版 2021年2月24日付「コンテナ不足、資材価格押し上げ」
- (2) 日刊木材新聞 2020年12月17日付2面「2020年を顧みる米材・欧州材」
- (3) 日刊木材新聞 2021年1月7日付5面「欧州産地の値上げ攻勢続く」
- (4) RANDOM LENGTHS INTERNATIONAL: 2021年1月27日付「Outlook 2021 – Part Two Recovery from pandemic will set the 2021 tone in Europe」
- (5) 木材建材ウイクリー 2020年12月21日付p23-24
- (6) RANDOM LENGTHS INTERNATIONAL: 2020年12月9日付「New Zealand exports to China recover from pandemic」
- (7) 日刊木材新聞 2021年2月11日付1面「低成長下でも需要おう盛 2020年中国林産物輸入」
- (8) Wealth 2021年1月8日付p5「豪産木材、とうとう残る2州も禁輸＝中国」
- (9) 木材建材ウイクリー 2021年1月25日付p8
- (10) 日刊木材新聞 2020年7月2日付1面「7ヵ月ぶり伐採再開」
- (11) 国土交通省 住宅着工統計
- (12) 日本経済新聞 2021年2月25日付20面「木材・合金鉄、対日で高騰」
- (13) 木材建材ウイクリー 2021年3月29日付p4-5
- (14) 日本製紙連合会 2020年12月「紙・板紙需給速報」
- (15) Industry Edge 2020年10月18日付「Australian woodchip exports remain low, but prices are solid」<https://industryedge.com.au/australian-woodchip-exports-remain-low-but-prices-are-solid/>
- (16) Industry Edge 2021年1月25日付「Woodchip exports continue to fade: down 32% year-ended November」<https://industryedge.com.au/woodchip-exports-continue-to-fade-down-32-year-ended-november/>
- (17) 日刊木材新聞 2021年2月4日付8面「木質ペレット、PKSともに増加基調」
- (18) Agensi Inovasi Malaysia 2013年「National Biomass Strategy 2020: New wealth creation for Malaysia's biomass industry」